



門脇 輝明 議員

要配慮者への支援は

町長

必要に応じ資材も配布する



避難所の備えは大丈夫か

【門脇】「新型インフルエンザ対策等行動計画」の要配慮者数は。
 【町長】約200人だ。
 【門脇】対象者に必要な資器材の備蓄数、生活必需品などの確保や配分、配布の具体的手続きは。
 【町長】備蓄は医療機関などの感染対策用マスク1万950枚ほかゴム手袋、防護服などだ。必要に応じ要配慮者へも配布する。生活必需品などは県などと連携して確保し、必要に応じて支援する。

共有は。
 【町長】対策会議、対策本部を立ち上げ行動計画にもとづき感染症対策を行い、町報、防災無線などで情報共有をはかった。
 【門脇】避難所のコロナ対応の準備は。
 【町長】今回は保健福祉センターなかやま、同だいせんは使用しない。中山、大山公民館福祉センターなわに開設の予定だ。
 基本は距離を置くこと。受け付けのパーテーションは考えるが、避難所全体には難しい。

【門脇】コロナ不況ともいわれ、雇用情勢の厳しいなか、就職をめざす青年や、家族の不安は察するに余りある。
 この制度は大山町を拠点に生活を考える青年や家族、受け入れる地域産業にとって、将来への希望の一灯だ。
 できるだけ早く実施すべきだが、制度設計の現状と町長の決意は。
 【町長】町内企業の雇用確保にもつながる制度を検討している。
 経済動向をふまえ、町内企業の意向も確認しながら進めている。
 【教育長】奨学金制度は町長部局が担当している。

奨学金返還助成の 施行時期は

町長

制度は今年度中に

まとめたい

この制度を創設することで、子どもたちの未来の選択肢を増やすことにつながると思っています。

かしたいという決意は変わりないか。

【門脇】問題は時期だ。令和2年度中に何と

【町長】具体的にいつ制度をスタートさせるかは不確定だが、制度は今年度中にまとめた



町の未来を担う青年に応援を